

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月7日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22300283

研究課題名（和文） 協働と省察による校内教員研修が教師の授業力と学習者の学力向上に及ぼす影響

研究課題名（英文） A Study on the Effects of In-service Training in the School including the Teacher's Collaboration and Reflection Activities for Improvement in the Teaching Practice Ability and children's scholastic attainments.

研究代表者

南部 昌敏（NANBU MASATOSHI）

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：90143627

研究成果の概要（和文）：知識伝達型、問題解決型、省察型の研修スタイルを必要に応じて組み合わせ合わせた「協働と省察の継続と積み上げによる校内教員研修標準モデル」を構築し、実践した結果、教員の授業力と児童の学力の向上及び学習習慣の習得が明らかとなった。校内教員研修の効果は、全ての教員の行動変容として表れ（レベル3）、教職員一丸となって学校組織全体の自律的な取り組みも実現した（レベル4）。また、ニーズに応じた多様な集合型研修を行った結果、どの研修でもワークショップ型研修は好意的に受け止められ、授業力の向上に向けた改善点の明確化に寄与したことが確かめられた。

研究成果の概要（英文）：We constructed "standard model of in-service teacher training in the school" that combined the training styles of the knowledge transmission type, the problem solving type and the reflection type if necessary was constructed, and it was done concretely. As a result, it was clarified that teachers' competency of lesson management was raised, children's scholastic attainments was improved, and the study habit was acquired. As a result, it was clarified that teachers improved the there competency of lesson management, children improved there scholastic attainments and they formed good study habit. The effect of this in-service teacher training system reached even level 3 (Behaviour evaluation is the extent of applied learning) and level 4 (Results evaluation is the effect on the environment by the trainee.). The workshop type training was friendly caught by teachers, and contributed to the clarification of the improvement for teacher's competency of lesson managements for any training.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2011年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2012年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学 細目：教育工学

キーワード：(1) 教師教育 (2) 教員研修 (3) 校内研修 (4) 授業力向上 (5) 学力向上

1. 研究開始当初の背景

中央教育審議会の答申(2005)は、新しい義務教育の姿として、「我々の願いは、子どもたちがよく学び、よく遊び、心身ともに健やかに育つことである。そのためには、質の高い教師が教える学校、生き生きと活気あふれる学校を実現したい。学校の教育力、すなわち、学校力を強化し、教師力を強化し、それを通じて子どもたちの「人間力」を豊に育てることが改革の目標である。」を示した。まさに、教師の授業力の向上が児童生徒の学力の向上に必要な不可欠であることを指摘した。

そのような中、研究代表者である南部は授業力と学力の向上を目的として、2006年度より東京都荒川区立尾久第六小学校と協働して全教職員が全校児童ひとり一人を看取り、その結果を共有しあうとともに、その実態を踏まえて、日々の授業の目標を達成するためにより効果的で魅力的な授業を協働して創造し、授業実践と授業観察及びワークショップの手法を用いた協働省察によってその授業のよさの確認と改善策の検討を行う校内授業研修会を継続して行ってきた。そこで見いだされた協働の実践知を相互に共有しあうとともに、各教員がその実践知を取り入れた授業を日々実践し、自己省察を通してよさの確認と課題の明確化を行い、そこで得られた実践知を基にして、次の回の授業の協働創造へと活かす活動を継続してきた。換言すれば、協働と省察の積み上げによって、効果的で魅力的な授業を醸成し続けることで、その過程を通して、児童の実態把握力、授業構成力、図書教材及びICTメディア選択開発活用力、人材活用力、授業展開力、授業観察力、授業評価・学習評価力等の授業力を向上させることが期待できる。

2. 研究の目的

児童生徒の学習状況の改善と学力の向上は喫緊の課題となっている。それを解決するためには、教師の授業力を向上させることが不可欠である。そこで、本研究では、それぞれの学校で日常的に行われている校内教員研修に、教師同士の協働によるワークショップ研修とそれぞれの教員による省察活動を取り入れ、それを継続することによって、教師の授業力の向上を図るとともに、それが児童生徒の学習状況の改善と学力の向上に及ぼす影響を量的・質的に検討することを目的とする。その際、授業改善のための視点としては、ID (Instructional Design) の考え方を基軸に、ICTの活用と情報教育、図書活用と読書指導、地域人材活用と学校・家庭連携の3つの方策を取り入れた効果的で魅力的な授業づくり・授業展開・授業評価の方法を取り入れる。

3. 研究の方法

1. 小学校で行われている校内教員研修及び授業実践の実態を調査・分析し、校内教員研修標準モデルを策定するとともに、教師の授業力のチェックリストを策定する。2. 校内教員研修標準モデルを参考に、学力面での対応に必要な東京、沖縄において、教員研修機関及び協力校を依頼し、教員研修機関及び各協力校独自の校内教員研修モデルを構築するとともに、協働と省察を取り入れた教員研修を継続して実施し、教師の授業力の向上と児童生徒の学力の向上への影響を教師の授業力のチェックリストに基づく質問紙と学力調査結果を用いて分析し、その変容を明らかにする。3. カークパトリックの研修効果測定 of 4 レベルを用いて、本プロジェクトの取り組みが教員研修のレベルアップと児童生徒の学力向上に有効に機能することを解明する。

4. 研究成果

1. これまで開発した校内教員研修モデルに基づき、知識伝達型、問題解決型、省察型の研修スタイルを必要に応じて組み合わせる「協働と省察の継続と積み上げによる校内教員研修標準モデル」を構築した。2. 教師効力感及び教職に関する認知について検討し、教職年数、ワークショップ型校内研修への参加回数及び校内研修への認知との間に有意な関連が認められた。3. 東京都において協働と省察によるワークショップ型教員研修を継続した結果、教員の授業力の向上が計られ、児童の学力調査の結果、目標値との比較においてほとんどの学年が達成し、学習習慣も身に付いていることが明らかとなった。カークパトリックの提唱した4段階評価に当てはめてみると、校内教員研修の効果は、全ての教員の行動変容として表れ(レベル3)、さらに、教職員一丸となって学校組織全体の自律的な取り組みも実現した(レベル4)。4. 沖縄県において、小中連携合同研修、小学校及び離島への出前研修、中学校の教科別部会研修、ファシリテータ研修と多様な教員研修を実施した結果、ワークショップ型研修は好意的に受け止められ、授業力の向上に向けた改善点の明確化に寄与した。また、児童の学力調査の結果、平成20年度から3年間、3年生、5年生ともに算数A問題、国語A問題、同B問題の学力が向上した。5. 埼玉県において学級経営と授業改善に焦点を当てたワークショップ研修を5回開催し研修効果を確認した。6. 青森県においてICT活用指導力を育成するためのワークショップ型校内研修を4回開催し研修効果を確認した。7. 創発的分業システムを導入したワークショップ研修を実施し、グループ間での協働を取り入れたワークショップにおいて

気づきの効果が得られた。8. 国内の学会と国際授業研究学会 (WALS2012)で発表した。また、平成22年度～24年度の取り組みの成果を報告書として印刷し、関係者に配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 小林稔、南部昌敏、金城勲、浦野弘、三橋功一、井上久祥、我那覇ゆりか (2012) 「教員属性、研修参加状況と教師の自己効力感及び教職に関する認知との関連：沖縄県島尻地区の小・中学校教員を対象として」、京都教育大学研究紀要、第120巻、pp.57-68 (査読有)
- ② 南部昌敏、長谷川秀紀、金城勲、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥 (2011) 「協働と省察を取り入れたワークショップ型校内教員研修システムの開発—東京都荒川区立尾久第六小学校における校内教員研修の実践を通して—」、上越教育大学研究紀要、第30巻、pp.85-94 (査読有)
- ③ 浦野弘 (2011) 「公立中学校におけるワークショップ型校内教員研修を核とした授業力向上の取組—学校改善プランに即した一年間の実践を通して—」、秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要、第33巻、pp.111-121 (査読無)

[学会発表] (計9件)

<国際学会研究発表>

- ① Kobayashi M, Nanbu M, Urano H, Mitsuhashi K, Inoue H, Endo H, Yogi Y and Ganaha Y. (2012) Study on the Effects of Collaboration and Reflective Action-Derived Workshop-Based On-Campus Training on Teaching Ability. Conference Abstracts, The World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2012, p.129, Singapore. (査読有)

<国内学会研究発表>

- ② 南部昌敏、金城勲、上原周子、奥土晴夫、上原勝晴、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥、城間祥子 (2012) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響 (4)～沖縄県島尻地区におけるワークショップ型教員研修プログラムの開発と実践～」、第19回日本教育メディア学会年次大会、仙台
- ③ 南部昌敏、三橋功一、小林稔、浦野弘、井上久祥、城間祥子 (2012) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響 (5)～ワークショップ型校内教員研修の普及・啓発方法の検討～」、日本教育工学会第28回全国大会、

長崎

- ④ 南部昌敏、黒田富衛、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥、城間祥子 (2012) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響 (6)～埼玉県秩父市における学級経営に焦点を当てたワークショップ型教員研修プログラムの開発と実践～」、日本教育実践学会第15回研究大会、神戸
- ⑤ 南部昌敏、金城勲、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥 (2011) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響 (2)～沖縄県南城市立佐敷小・馬天小におけるワークショップ型校内教員研修の評価～」、日本教育工学会第27回全国大会、東京
- ⑥ 南部昌敏、金城勲、上原周子、上江田敏博、上原勝晴、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥 (2011) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響 (3)～沖縄県島尻教育研究所におけるワークショップ方式集合型教員研修プログラムの開発と実践～」、第18回日本教育メディア学会年次大会、東京
- ⑦ 飯伏竜二・井上久祥 (2011) 「教員を目指す大学生のICT活用指導力向上を目的とした研修プログラムの開発—ICT活用の模擬授業を題材とした協働と省察による指導力向上—」、日本教育実践学会第14回研究大会、京都
- ⑧ 南部昌敏、金城勲、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥 (2010) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響—沖縄県島尻地区におけるワークショップ型校内教員研修の実践を通して—」、第17回日本教育メディア学会年次大会、熊本
- ⑨ 南部昌敏、長谷川秀紀、小林稔、浦野弘、三橋功一、井上久祥 (2010) 「協働と省察による校内教員研修が教師の授業力と児童の学力向上に及ぼす影響—東京都荒川区立尾久第六小学校における校内教員研修の実践を通して—」、日本教育工学会第26回全国大会、名古屋

[図書] (計1件)

- ① 南部昌敏 (2012) 授業力を向上させるための「ワークショップ型校内教員研修」の方法、ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略&プラン43、教育開発研究所、pp.33-39

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南部 昌敏 (NANBU MASATOSHI)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：90143627

(2)研究分担者

浦野 弘 (URANO HIROSHI)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：50185089

三橋 功一 (MITUHASHI KOUICHI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40166062

小林 稔 (KOBAYASHI MINORU)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70336353

井上 久祥 (INOUE HISAYOSHI)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・
准教授

研究者番号：30274278

城間 祥子

上越教育大学・大学院学校教育研究科・
講師

研究者番号：30457379